

科学研究費助成事業 研究成果報告書

平成 27 年 6 月 9 日現在

機関番号：14401

研究種目：基盤研究(C)

研究期間：2012～2014

課題番号：24520577

研究課題名(和文)話しことば教育のシラバス作成に向けた日本語の雑談の類型化に関する研究

研究課題名(英文) Pattern classification of casual Japanese conversation toward creating a syllabus for vernacular language education

研究代表者

筒井 佐代 (Tsutsui, Sayo)

大阪大学・言語文化研究科(研究院)・教授

研究者番号：80227438

交付決定額(研究期間全体)：(直接経費) 1,400,000円

研究成果の概要(和文)：本研究では、日本語母語話者の友人同士による日本語の雑談の音声データを用いて、「会話参加者に関わる話題」について話している雑談における、質問の発話連鎖と言語形式の特徴、および意見の対立の発話連鎖と言語形式の特徴、また、それらが話題の流れのどの位置で現れるのかといったよりマクロな視点からの特徴を分析した。その結果、ノダを用いない単純な質問と応答の連鎖は、理解に必要な情報を補足する等、挿入的に用いられること、また意見の対立は明示的になされるものの、摩擦が起きないように配慮をし、お互いの意見の相違を掘り下げないことが重要であること等が明らかになった。

研究成果の概要(英文)：This research utilizes oral data gathered from casual conversation among native Japanese speakers about themselves. We analyzed the characteristics of constructing sequences and linguistic forms of questions and opposing opinions, and determined from a macro perspective at what point in the conversation flow these appeared. The following results were obtained: Sequences of simple questions and answers not utilizing the -noda form added necessary information for participants to understand the conversation precisely; while differences of opinion were made explicit, importance was placed on avoiding friction or delving into areas where opinions differed.

研究分野：日本語教育学

キーワード：雑談 構造 質問 対立 日本語教育

1. 研究開始当初の背景

日本語教育においてコミュニケーション能力の向上が目的とされてから久しく、話しことばのための教材も数多く出版されている。しかし、話しことばの中でも雑談は体系的な教育がなされておらず、雑談を扱うためのシラバスも存在しない。日本で生活する日本語学習者は、周囲の人々と日本語でコミュニケーションを行い、人間関係を構築していく必要がある。したがって、人間関係構築にとって重要な役割を果たす会話であると言われる雑談 (Malinowski 1927) の教育を体系的に行う必要があると言える。

2. 研究の目的

本研究では、日本語の話しことば教育のための体系的なシラバスを作成するための基礎研究として、日本語母語話者による雑談のデータを会話分析の手法を用いて収集、分析し、雑談の類型化を行うことを目的とする。本研究では、雑談を連鎖組織の組み合わせから成るものと捉え、特に日本語としての特徴が現れている連鎖組織に注目して分析し、雑談の教育において扱うべき指導項目や言語形式について考察する。

3. 研究の方法

本研究の分析データは、近畿地方および関東地方在住の 20 代から 40 代の同性または異性の友人同士の雑談 10 会話 (参加者は 2 名から 4 名) の録音データ計約 8 時間と、その文字化資料である。分析にあたっては、文字化資料の内容を追って、筒井 (2012) の話題区分の基準を用いて話題が変わった位置で話題を区切り、各話題のタイプごとに、それぞれの典型的な連鎖組織とそこで用いられる言語形式を抽出した。

特に、本研究では、以下の二種類の連鎖組織、すなわち日本語教育の初級で扱われる、ノダの付加されない単純な疑問文形式 (「N/Na/A ですか」「V-ますか」およびその普通体の形式) の質問の発話から始まる連鎖組織と、日本語教育における重要な指導項目の一つである意見の対立の連鎖組織に注目し、その連鎖組織と言語形式の特徴を明らかにし、さらにその連鎖組織が雑談のどの位置に出現するのか、それは話題の展開とどのように関わることかという観点から分析を行った。

4. 研究成果

(1) 「N/Na/A ですか」「V-ますか」による質問の連鎖の出現位置と話題展開上の機能

質問の連鎖に関する研究において明らかになったことは、以下のとおりである。

「N/Na/A ですか」「V-ますか」およびその普通体の形式による、事態の成立を問う質問は、話題提示の位置に現れるものと話題内に現れるものの、大きく 2 種類が観察された。前者は、新規の話題提示、および「第二の物語」(Sacks, 1992) の提示の発話の 2 種類、

後者は、理解に必要な補足情報を得たり与えたりする連鎖を開始する発話、および反論や不満表明といった感情を表す発話の 2 種類である。

一般的に、質問の発話は、話題を深めていくのに重要な役割を果たすと考えられるが、もっとも基本的な質問の形式である、事態の成立を問う質問は、そのような機能を果たす発話ではないと言える。

以下、具体例を挙げておく。

話題提示の位置

(a) 新規の話題提示

(国際学会に参加する R と G がどうやって成田空港へ行くかという話題が終わったところで)

- 01F: ヨウさんは元気?
02R: 元気です。
03 (0.9)
04F: 最近ヨウさんに全然会ってないんだ
05 よなあ: :.=
06G: =うんあたしもほとんど会ってない月
07 曜日の必修と、明日の松本先生の、
08 講義に会うだけで全然今回、違うんで
09 すよね。

(b) 第二の物語の提示

(T の猫がいなくなって帰ってきた経緯の語りの最後)

- 01T: でもそしたら癪ついちゃったみたい
02 で: ,
03F: う:ん。
04T: 朝もず: っと窓んとこでがりがりや
05 ってにやあにやあ言い出したん[で: ,
06F: [うん。
07T: どうしようと思って。
08 (2.2)
09T: °なん大丈夫かなあ: °.=川口さん>
10 すいません<((ガチャンという音))
11 外出し-出してます: ?=か出しま
12 す: ?
13F: え?
14T: 川口さんちの猫って、外[に。
15F: [いやあ: : ,
16 うちももう完全[うち猫にして、]
17T: [出さないんですよね。]

話題内の位置

(a) 補足情報のやりとり

(F が飼い猫の写真を見せながら)

- 01F: まあ: , 奥さんのひざに乗っかつ
02 てる: 感じですね。
03W: あ、奥さまです[か?
04F: [そうです。
05W: わ: : : : : ,
06F: [うん。
07Y: [h h h
08W: <かわいい: : : い。どっちが子ネコ
09 だっ[たんですか>。

(b)反語による感情表明(姉の夫に結婚式のスピーチを頼んだら自慢めいたスピーチをされたという語りの中で)

- 01D: でこうスピーチをしてくれたわけ.
02 ほななんか, どうもひろ
03 せです(.)[みたいな(h)ん(h)で
04 (h)さ(h)あ,
05C: [h h h h
06D: いつも僕は司会の席:[でも今日は招
07 かれる側:[みたいな(h)な(h)んか
08 (h),
09C: [h h h
10 [h h h h h [(笑いながら
11 手を3回叩く))
12D: [そ(h)ん(h)な
13 (h)ん(h)言(h)う(h)? 普(h)通[h h
14 h h h h h h
15C: [h h h
16 h h .hh h h .h

(2) 対立の連鎖と話題の展開

雑談を続けて行く上で対立は円滑な会話の流れの妨げとなる恐れがあるが、それを会話参加者がどのように行い、その後の雑談へとどのようにつなげていくのかを分析することによって、会話参加者が雑談という会話を進めていく上でどのようなことを重視しているのかを考察した。

対立の連鎖の特徴、および対立が生じた後の話題の展開に関する研究の結果は以下のとおりである。いずれのデータにおいても、お互いの意見が対立していることがお互いにとって認識されると、対立のやりとりをすぐに終了し、その後話題をずらして同意し合うという展開が見られた。

東北旅行に行くか行かないかに関する対立の連鎖の分析

このデータの分析から、日本語母語話者は対立が生じた後、さらに対立を深めることなく、話題をずらして新たな評価対象についての評価を行い、相手もすぐにそれに同意して話題を終結するという方法が取られることがわかった。その際、新たな評価対象として、一般的な事柄が持ち出されることも一つの特徴として指摘できる。一般的な事柄であれば、それに対して同じ評価を下すことが、同じ判断基準を持っている人の間では相対的に容易であるためである。このことから、雑談においては、自分の意見を押し通したり、論理的に話を展開したりすることよりも、相手と同じ意見で同意し合い一つの意見を協働で作り上げることが指向されていたと言える。

作品に対する評価に関する対立の連鎖の分析

日本語では対立意見を明示的に発話しないという指摘もあるが、このデータにおいてはむしろ意見は明示的に述べられていた。ただし、述べる際には対人関係に配慮した形式が用いられており、また述べた後にすぐその

話題を終了し、関連する別の話題へと移るという特徴が、複数のデータにおいて見られた。このことから、日本語の親しい友人同士の雑談では、意見を言わないのではなく、摩擦が起きないように配慮をしつつも明示的に意見を述べるということが重要であること、また相手と意見が異なることがわかればすぐにその話題を終了し、全く別の話題ではなく関連する話題へとずらしてお互いの合意を得てから大枠の話題を終了するという方法があることが指摘できる。

以下、一つ事例を挙げておく。11A から 29B が対立のやりとり、31A から 65A が話題をずらして合意し合うやりとりである。お互いの意見とその根拠がわかった時点で対立のやりとりは終了し、同じ話題の中の別の対象への評価のやりとりを開始して、すぐに合意形成が行われている。

(映画『ブリジット・ジョーンズの日記2』を観た後、主演のコリン・ファースの良さについて話している。B が「コリン・ファースの夢を見そうだ」と言う。)

- 01A: コリン・ファースの夢見たい[わ:..
02B: [う:ん.
03 まっ人のものやけどね.
04 (0.6)
05B: イタリアに住んではるんでしたっけ.
06 (0.8)
07A: えっ住んでんのまだ.
08 (0.6)
09B: さあ:.(コップを置く音)
10 (1.6)
11A: でもやっぱりあの:.....,
12 (1.3)
13A: 『ラブ・アクチュアリー』の方が好
14 きかも.
15 (0.8)
16B: あっそう:..
17A: うん.
18 (1.7)
19B: う:::ん.
20 (1.2)
21A: 現実感があるやん.
22 (1.8)
23B: や:あたしは(.)あ:たしは:::., コ
24 リン・ファースは:[ああいう::きち
25 っとした:.,
26A: [うん.
27B: できる男のイメージがある[から:.,
28A: [あ:.....
29B: うん.
30 (1.6)
31A: hahaha.h hhh 「エ(h)クスキュー
32 (h)ズミー(h)」[° hhhhhhh°
33B: [hhhhhhh
34B: [[「アイムカミングサー」.=「サ
35 ー」ちゃうわ][hhhhhhhhhhhh
36A: [[° h h h h h h h h h h h h h h h h
37 h h h°][.hh ち(h)が(h)う°
38 hhhhh° .hh なんて「サー」やねん

39 [hhhh° h h h h h h h h h h
 40 h h h h° .hh]hhhh
 41B : [ほ(h)ん(h)ま(h)や(h). = ¥それヤバイ
 42 よね¥hhh]
 43B : >あそこはちょっとDVDでもっかい観
 44 なあかん[ところ<hhhhh
 45A : [>もっかい観なあかんとこや
 46 ね<.
 47B : >英語字幕で観なあかんとこやねあれ
 48 は<.
 49 (2.5)
 50B : hh((物を置く音))あれはおもしろか
 51 った. =[一番おもしろい:-
 52A : [あれはおもしろかった. =
 53 一番笑ってたもん.
 54B : hhhhhh[hhhhh .hh
 55A : [¥お-しばらく終わってもまだ
 56 笑ってた(h)も(h)ん h[hhhhh
 57B : [¥おもしろかった
 58 もんあれは¥. =
 59A : ¥笑いすぎやと思って[hhhhhhhh
 60 hh .hh
 61B : [hhhhhhhh
 62B : ¥おもしろかったわ¥.
 63 (1.8)
 64B : うまいこと言うたな:と思[って.
 65A : [う:ん.

<引用文献>

- Malinowski, Bronislaw. 1927. The problem of meaning in primitive languages. *The meaning of meaning: 2nd edition revised*, eds. by C. K. Ogden and I. A. Richards, 296-336. London: Routledge and Kegan Paul.
- Sacks, Harvey. 1992. *Lectures on conversation: volumes I & II*, ed. by Gail Jefferson. Cambridge: Blackwell Publishers.
- 筒井佐代(2012)『雑談の構造分析』くろしお出版

5. 主な発表論文等

〔雑誌論文〕(計4件)

筒井 佐代、雑談としての評価の対立と対人関係の構築、科学研究費補助金基盤研究(C)「話しことば教育のシラバス作成に向けた日本語の雑談の類型化に関する研究」研究成果報告書、査読無、2015、pp.57-78

村田和代、井出里咲子、筒井佐代、大津友美、第32回研究大会ワークショップ 雑談の美学を考える-その構造・機能・詩学をめぐって、社会言語科学、第16巻、第2号、査読無、2014、pp.112-118

筒井 佐代、日本語母語話者の雑談におけ

る対立と融合のダイナミズム、社会言語科学会第32回大会発表論文集、査読無、2013、pp.189-190

筒井 佐代、「N/Na/Aですか」「V-ますか」による質問の出現位置と談話展開上の機能、社会言語科学会第31回大会発表論文集、査読無、2013、pp.182-185

〔学会発表〕(計2件)

日本語母語話者の雑談における対立と融合のダイナミズム、社会言語科学会第32回大会ワークショップ、2013年9月7日、信州大学(長野県・松本市)

「N/Na/Aですか」「V-ますか」による質問の出現位置と談話展開上の機能、社会言語科学会第31回大会、2013年3月17日、国立国語研究所(東京都・立川市)

6. 研究組織

(1)研究代表者

筒井 佐代(TSUTSUI, Sayo)

大阪大学・大学院言語文化研究科・教授

研究者番号: 80227438